



2014年(平成26年)  
12月号(No.835)  
公益社団法人  
**日本山岳会**  
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に  
含まれていますURL ● <http://www.jac.or.jp>  
e-mail ● [jac-room@jac.or.jp](mailto:jac-room@jac.or.jp)

## 平成26年度年次晚餐会開く 参加者、9年ぶりに500人超

### ■会場が京王プラザに

平成26年度年次晚餐会は12月6日、東京・新宿の京王プラザホテルで開催された。

皇太子様がお忙しい公務のなか、昨年に続いて出席されたのをはじめ、510人の会員が集い、賑やかに歓談した。新入会員が3年連続して200人を超え、45人が参加、いくぶん若さを取り戻した。「山の日」制定を祝う晚餐会でもあった。

### ■会長挨拶、「山の日」制定祝う

会場が、これまでの品川プリンスホテルから新宿の京王プラザホテルに変わった。プリンスホテルには、新高輪、品川を通じ23年間お世話になった。京王プラザは、同

ホテルがオープンしたころ、10年にわたって利用させていただいている。晚餐会は1950年、名譽会員を招待して開催した晚餐会の翌年、「年次晚餐会」と銘打つて行なったのが始まりとされる。これに従えば、2014年は64回目となる。

会場には51のテーブルが並び、これまでと同じように「富士山」、「北岳」などの山名が付けられた。

森武昭会長は次のように挨拶した。

「御嶽山の噴火は自然災害の脅威

を改めて認識させられるものだつ

た。明るい話題は「山の日」制定法案が成立したことだ。わずか6年

という期間での実現に驚いている。



森会長挨拶

来年は日本山岳会創立110年を迎える。記念事業は、記念事業実施する

### ■物故会員72人に黙祷

物故会員に対して黙祷した。昨年の晚餐会以降に亡くなられた会員は72人。木下是雄・名譽会員、梅海新道を開拓した小野健・永年会員、会報「山」編集長だった村井葵会員、監事を務めていた一力英夫会員、名クライマーだった名越實会員、藤本慶光・元副会長、古屋学・元山梨支部長、女性として千葉支部事務局長を務めてこられた豊倉さと子会員らが帰らぬ人となつた。

### ■新永年会員は49人

新しい永年会員は49人。196

4年4月から翌年3月までに入会し、以降継続して50年間、会員として活躍された会員および復活会員。会員番号は4642と5723から5891である。この年、10月10日に東京五輪が開幕した。開

## 目 次

平成26年度年次晚餐会開く	
参加者、9年ぶりに500人超	1
日本山岳会の財政問題(1)	6
ザンスカール未踏峰へ 2014海外登山基金助成登山	8
寄付金および助成金などの受入報告	9
東西南北	10
活動報告	10
図書委員会／集会委員会	
支部だより	13
東九州支部／宮崎支部	
図書紹介	15
新入会員	18
会務報告	19
ルーム日誌	20
Climbing&Medicine	21
会員異動	21
INFORMATION	21
日本山岳会所蔵資料紹介 No.17	23
編集後記	23

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間	
月・火・木	10~20時
水・金	13~20時
第2、第4土曜日	閉室
第1、第3、第5土曜日	10~18時
年末年始休室	12月27日~1月5日

幕に合わせ東海道新幹線が営業開始した。4月にIMF8条国に移行、海外渡航が自由化された。1人間年500ドルの制限付きだった。晩餐会には28人が出席され、スタッフがそれぞれの会員席に出向き、永年会員章を手渡した。

### 新永年会員(会員番号順)

高村奉樹、宮森常雄、門田嘉弘、岩崎忠昭、小林勝、矢入憲一、小林伸好、宮本貞雄、佐々木民秀、伊藤博夫、宮崎紘一、大澤薦、安藤文子、菊地文雄、山本良三、鈴木明三、黒石恒、小林俊樹、市川章弘、木戸繁良、佐伯郁夫、広川清治、菅原省司、河村勝、平田大六、野田憲一郎、佐藤辰雄、濱野吉生、明石貴雄、橋村一豊、尾崎進、越田和男、広瀬健三、山田英二、長沼雄志、高橋聰、門井邦夫、大石惇、山口寿證、成川隆顕、畠中六左衛門、小田島政行、田村俊介、野上成勇、新妻徹、橋本正人、松崎中正、保田信紀、柳沢勝輔

新永年会員を代表し、新妻会員が挨拶した。長年、北海道支部長を務めた。「10年前、100周年記念事業として、北海道・宗谷岬から九州・佐多岬まで5000kmの中央分水嶺を踏破した。当初、支

部長会議などで否定的だったが、私は「北海道はやるよ」と言つた。

それで新入会員が育つと思った。

私自身、30歳のころから、宗谷岬

より襟裳岬を目指して歩いている。去年、岬に到達した。90歳の卒寿でもつて卒業したい。永年会員になれば会費を払わなくていいが、

会費相当分を男子・女子学生の基金として積み立てたい」と、大きな拍手を誘つた。

### ■ 大澤雅彦氏に秩父宮記念山岳賞

第16回秩父宮記念山岳賞は、大澤雅彦会員の「湿潤アジア山岳の垂直分布帯の成立と保全に関する生態学的研究」に決まった。

受賞記念講演では、アジアの国々の森林の水平分布と垂直分布を比較研究したこと、熱帯では森林限界まで常緑広葉樹が優占し、ヤマモモやヒメツバキなどが植生していること、多様さは人種、文化、宗教に及び、独自の文化も多くの主眼なので、このような社会へようとしていることなどを話した。

表彰式が行なわれた。大澤会員

は「学術雑誌や学術書に発表するものが主眼なので、このような社会貢献的な会の場で賞をいただける

のは本当に嬉しい。先ほどの講演会では、準備してきたつもりだが、話がいささか難しかったようだ。

これから精進して、おもしろいようになりたい。ヒマラヤから始まつて熱帯アジア、中国などで研究を続けてきた。私自身はこんなにおもろいテーマはないと思ってい

る。皆さんにわかつてもらうよう、頑張りたい」などとユーモアを交えて話された。

### ■ 成川隆顕会員に会長特別表彰

「山の日」制定に尽力された成川隆顕会員に会長特別表彰を贈った。成川会員は、「『山の日』制定を皆さんとともに喜びたい。日本山岳会のほか日本山岳協会、HATIJなど山岳5団体が力を合わせての作業だった。国会が超党派で16番目の国民の祝日にしてくれた。しなければならないことがたくさんある。若い人たち、子どもたちが山に親しむような環境をつくりたい。山の安全とか自然環境の保護などを展開しながら、『山の日』が有意義な日になるよう祈つている」と語った。

### ■ 新入会員は211人、45人出席

続いて新入会員の紹介。今年は211人が新しく会員に加わった。



新入会員紹介

3年連続して200人を超える新入会員を迎えることができた。晩餐会には、うち45人が出席し壇上に上がった。代表して小島誠会員が挨拶した。小島さんは、小島烏水・日本山岳会初代会長のお孫さんだ。実は、今年はほかに2人のお孫さんも入会された。そのうちのひとり、南英敏さんも晩餐会に出席された。3人は、小島烏水祭が、四国支部の主管で一昨年から始まつたのをきっかけで入会した。小島会員は「まさに爺さんの七光りといったところでしょう。今日壇上に上がった人は、長く登山をやっている、あるいは山岳を愛する」と語った。

する経験を経て入会した。会員方の温かい指導を賜りたい」と挨拶した。

### ■皇太子様参加し恒例の鏡開き

恒例の鏡開きは皇太子様、森会長のほか新永年会員を代表して新妻会員、秩父宮記念山岳賞を受賞した大澤会員、会長特別表彰を受賞した成川会員、日本山岳協会会長・神崎忠男会員の6人で行なつた。お酒は故今西壽雄名誉会員ゆかりの「四海王」。芳子夫人のご厚意で提供いただいた。

尾上昇・前会長の音頭で乾杯した。尾上前会長は、「110周年記念事業実行委員長を務めている。「110周年記念事業として盛りだくさんの企画を立てている。ぜひ全国レベルで、全員が楽しく参加してお祝いしたい」と語つて杯を傾けた。会食が始まつた。

会食を挟んで全国32支部の会員の紹介があつた。支部の動きは、それぞれに活発だ。参加者は紹介されるたびに立ち上がり、それぞれの支部の活躍をアピールした。恒例のイベントだ。

■講演会・展示会・図書交換会等  
晩餐会に先立ち、午後2時から海外登山の報告、また秩父宮記念

山岳賞の受賞記念講演会が開かれた。晩餐会会場の隣、コンコード・ボーリルームCでは、展示会・図書交換会が行なわれた。展示会は、

アルパインスケッチクラブが開催し、計39点の作品を展示した。油彩、水彩、パステル画。スケッチブックも2点あり、描くことの楽しさを伝えた。日本山岳画協会からの出展もあつた。

図書交換会を年次晩餐会で開催するのは3年目。今年は350点

の出品のほかに、近藤等名譽会員から「欲しい人に無料であげてほしい」と2箱の本が届くサプリズがあった。本を担当の参加者だけではなく、講演会やスケッチ展の合間に多くの会員が足を止め、20人以上が申込んだ本まで。残つた本は数冊だつた。

翌日の懇親山行は集会委員会が主催し山中湖東部の鉄砲木の頭・高指山で行なつた。およそ100人が参加、新宿西口から2台のバスに分乗して出かけた。好天に恵まれた。富士山が美しかつた。

(文・高橋重之、写真・清水義浩、大塚幸美)

## 110年記念海外登山報告 学生部女子ムスタン登山隊 マンセイル峰初登頂

かつてネパール王国の中に、ムスタン王国という、もうひとつの中入り禁止だつた。2008年、藩王制が廃止され、今はネパール連邦民主共和国ダウラギリ県ムスタン郡となつていて。

2014年5月、ネパールは104座の未踏峰の登山を解禁した。そのひとつ、ムスタンのマンセイリ峰(6242m)に日本山岳会学生部の女性が挑戦した。井上由樹子(武藏野大、25歳)、長谷川恵理子(創価大、22歳)、中村眞理子(筑波大、22歳)、三島夏帆(弘前大、21歳)の4人だ。これに顧問として谷口けい(42歳)が加わつた。

4人は昨冬、立山の国立登山研究所で知り合つた仲間だ。遠征は、日本山岳会創立110記念事業のひとつとして行なわれた。9月5日、閑空をカトマンズに向けて出発。10日、ジョムソン飛行場からキャラバンを開始した。隊員のひとりが体調を崩し高熱で3日間寝込んだ。ヘリコプターで

カトマンズに搬送。残りのメンバーは、行程2日の距離を1日で歩くなど、スタッフやロバに負担をかけてしまつたが、9月20日無事にBC(4888m)を建設した。

29日、アタック開始。C2(5684m)出発時には青空が出ていたものの、やがて小雪が降り始め稜線では本降りに。東稜北面(チベット)側にルートを見つけ、1本のロープで4人がアンザイレン、携行したギア類をフル活用して登頂した。下山は懸垂下降で始まり、さらに激しい降雪で長い氷河上をヒドン・クレバスに気を付けながらBCに戻つた。10月1~3日、モンスーン明けを知らせるアネハヅルの大群が飛来。ヒマラヤを越えてゆくツルの姿に感動した。

「遠征を通していただいたものや得たものは大き過ぎで、どうすれば恩が返せるのか、自分の成長の糧にしていくのか、まだはつきりとはわかりませんが、これから山を登つていくながで、生きいくなかで、自分のために、山のために、人のために何ができるのか考えていくたい」と結んだ。

(詳細は会報「山」11月号)

**ピオレドール・アジア受賞  
アラスカ・デナリ国立公園で  
4本の新ルート開拓**

谷口けい

和歌山で生まれ、千葉で育つた。どちらも海辺だが、小学校時代に冒險家・植村直己の著書と出会い、大人になつたら植村さんの消えたアラスカ・デナリに登りに行こうと決めていた。今年4月21日から6月5日まで38日間かけ、デナリ南麓のルース氷河最上流部で4本の新しい登攀ルートを開拓、ピオレドール・アジア賞を受賞した。

報告会で谷口さんは「38日間、誰にも会うことがなかつた。自分たちと自然が、純粹に向き合うことができる環境を作り出し、より雑音なく、自分たちのラインに向かうことができたと思うし、美しくも厳しい自然の姿を受け止めることができた」と語った。

ルース氷河は、北アメリカ大陸

最高峰のマッキンリー山から流れ出る巨大な氷河である。その脇に岩峰がいくつも二ヨキニヨキと生えている感じ。最上部までセスナで飛んだ。風当りの強くなく、クレバスのない、しかも岩峰の良く

和歌山で生まれ、千葉で育つた。どちらも海辺だが、小学校時代に冒險家・植村直己の著書と出会い、大人になつたら植村さんの消えたアラスカ・デナリに登りに行こうと決めていた。今年4月21日から6月5日まで38日間かけ、デナリ南麓のルース氷河最上流部で4本の新しい登攀ルートを開拓、ピオ

レドール・アジア賞を受賞した。

報告会で谷口さんは「38日間、誰

にも会うことがなかつた。自分たちと自然が、純粹に向き合うことができる環境を作り出し、より雑音なく、自分たちのラインに向かうことができたと思うし、美しくも厳しい自然の姿を受け止めることができた」と語った。

白夜に近い季節なので苦にならない。BCから1時間くらいで岩壁に取り付く。日が当たると雪崩が起きる。BCでクラッシュ音楽をよく聴いた。新ルートには音楽に馴染む名を付けた。

（4つの新ルート）

▽プレリュード（ダンビアード南壁  
バリエーション） 壁右端の広いク

ーロワール（岩壁に食い込む岩溝、  
ルンゼ）状から取り付き、小さな雪  
稜を乗越して左方へトラバース。  
壁のほぼ中央を上部へと向かう。

頂上プラトーへ。

▽コンチエルト（ピーク11—30  
0東稜） 下部は、雪壁からボロボ

ロの氷と岩、スカスカの雪。上部

ニー状の隙間に導かれて氷と雪の

上部ヘッドウォールを右上し、チム

リックを乗越して左方へトラバース。

ピッチ、東岩稜沿いのコーナーか

ら上部スノーリッジへ。雪庇と氷の

リッジを高度感いっぱいに登る。

上部はセラック帶。氷河の割れ目

をつないで頂上プラトーを目指す。

頂上直下で大きな割れ目に遭い、

アイスクライミングで突破。南壁へ

の下降路を見出し、東壁→南壁へ

の縦走を完成。

▽ソナチネ（ピーク11—300東壁

に見つけた一本の明らかな氷のラ

イン）下部ガリーはコンテ。上部ガ

リーは流水氷と雪氷と岩。スタカ

ーあり、スラブ、チョックストーン

と常緑樹の分布を制限する最寒月



谷口さんと黄金のピッケル

**秩父宮記念山岳賞講演  
—熱帯高山と温帯高山の垂直  
分布帯はどう違うのか—**

大澤雅彦

湿润アジアは、赤道熱帯多雨林

から温帯森林を経て北緯60度を超える北方森林限界まで森林が連續分布する。この地域は同時に森林限界高度を超える高山が点々と分布し、森林の水平分布帯と垂直分布帯の緯度的変化を連続して比較

できる世界で唯一の地域である。

垂直分布帯は北緯20～30度付近で明らかに不連続構造を示し、以南は森林限界まで常緑樹が優占する熱帯型、以北は落葉樹や針葉樹の森林限界となる温帯型の地理的パターンを示す。

森林限界の温度条件は熱帯から北方森林限界まで夏のエネルギー量を指標する吉良の温量指数（月平均気温5℃以上の積算温度）では一定の15℃・月となる。熱帯型、温帯型の境界はこの森林限界条件

で5ピッチ+α。最上部はコントでコルまで上がり、上部岩稜帯の登攀へ。クラックを使って岩と雪の3ピッチ半でP3頂上へ。



秩父宮記念山岳賞された大澤雅彦さん

平均気温マイナス1℃線が交差する北緯20～30℃付近になる。

以南の熱帯型垂直分布では、森

林限界にはヤマモモ属、ヒメツバ

キなど亜熱帯・暖温帶性の樹木が  
優占する。

この境界域はヒマラヤから雲南、  
台湾、さらに日本へと至る緯度域  
で、多くの第三紀遺存種、つまり  
第三紀に広分布し、その後絶滅し  
て、特定の地域だけに生き残った  
種を多く有している。

地球温暖化で気温が上昇すると  
この遺存種の生育適地が失われる。

中でもブータンは西から南、東南、  
東アジアに至るユーラシア植物相  
の会合点で多様な植物が分布し、  
多くの遺存種も見られる。多様さ

は人種、文化、宗教に及んでいる  
が、独自の文化も多く、それを培

つてきた自然と合わせて維持・保  
全することが世界的に重要だ。



大澤雅彦会員は、千葉大学を1

968年に卒業。東京大学大学院  
に進学し75年、富士山の垂直分布  
帶の研究で理学博士の学位を取得  
した。千葉大学、東京大学大学院  
教授などを歴任。ネパールやブー  
タンで一貫して垂直分布帯を調査、  
マレーシア、インドネシアなどの  
高山でも調査を行なった。現在は、  
夏は中国・雲南大学に滞在し遺存  
種の調査、春・秋は王立ブータン  
大学で南ブータンの植生調査・指  
導を行なっている。

(講演 報告会は、それぞれいた  
いたレジメを基に構成した。(文  
責・高橋重之、写真・大塚幸美)

## 平成26年度支部長会議 財政問題を話し合う

毎年、年次晩餐会に先立つて開  
催している支部長会議が12月6日  
午前10時30分から、晩餐会と同じ  
京王プラザホテルで開催。全国32  
支部から支部長が参加した。会務  
報告などの後、吉川正幸財務担当

常務理事が財政問題について報告、  
これに基づいて意見交換した。

吉川報告によると、日本山岳会

の会費収入は、平成14年度の68百  
万円をピークに減少し続け、25年  
度は52百万円強となつた。経常的  
な費用に大きな変化はなく、消費  
増税もあって確実に増加し、この  
5年間は実質的に毎年5百万円を  
超える赤字を計上している。吉川

常務理事は「なんとか資金難にな  
らないでいられるのは、経費節減  
に努めながら過去の蓄積を食いつ  
ぶしているからである」と言つた。  
これに対する意見・提案が支部  
員は、「日本山岳会の会員になる  
と、どんなメリットがあるのか、説  
明しにくい」という。会員増強のネ  
ックになつてゐる。東海支部は、入  
会金を支部が助成して免除する会  
員増強策を検討しているが、異論  
もある。他支部の情報が欲しい。小  
川支部長は、会員増強に熱心な支  
部長のミーティングを提案した。

重廣関西支部長は賛助会員の新  
設について言及した。(登山)とい  
うマーケットは5000億円の規  
模がある。賛助の可能性は大きい。  
四国支部は、鳥水祭の開催と登山

教室によつて会員を増やした。今  
井会員は「一緒に山に登ることに  
よつて会員を増やしていくことは  
有効な手段である」と話した。

山梨支部は、山梨学院大学と連  
携し「山の博覧会」を開催してきた。  
深沢支部長は私立大学との共同事  
業のメリットを披露した。それぞ  
れに示唆に富むアイデアだ。

## ■会務報告

▽遭難対策 日本山岳会が主催す  
る山行について、本部に登山計画  
を提出してもらう。委員会、支部  
の山行であつて同好会山行、個人  
山行は含まない。遭難対策規定を  
から出された。岩手支部の中谷会  
員は、「日本山岳会の会員になる  
と、どんなメリットがあるのか、説  
明しにくい」という。会員増強のネ  
ックになつてゐる。東海支部は、入  
会金を支部が助成して免除する会  
員増強策を検討しているが、異論  
もある。他支部の情報が欲しい。小  
川支部長は、会員増強に熱心な支  
部長のミーティングを提案した。

▽第31全国支部懇談会 四国支部  
が主管し、小島鳥水祭と併せ、2  
015年4月11～12日に高松市、  
喜代美山荘「花樹海」で開催する。  
なお28年は越後支部、29年は茨城  
支部の予定。(文・高橋重之)

## Financial Report

# 日本山岳会の財政問題(1)

**財務担当理事 吉川正幸**

9月の最初の連休に穂高に登つた。8月の悪天候に代わって好天が続いたせいか、穂高の山小屋は定員の2倍の人数を泊めたと聞いた。キャンプを張った徳沢園は、今まで見たこともないほど多くのテントで埋まっていた。「登山者が減っている」、「若者は山に行かない」など、日ごろ私も口にしている日本山岳会の会員減少の言い訳をできないほどの山の盛況であった。

日本山岳会の会員の減少、平均年齢の上昇については、5年前に尾上昇前会長が就任挨拶で危機を訴え、森武昭会長に引き継がれて、以来ずっと日本山岳会は、会員増強と支部活性化のための様々な対策を講じてきた。この間、YOU TH CLUBなどの施策によつて若手の入会者が増えて会員減少に歯止めがかかったことは事実である。しかし、会の多数を高齢者が占めることがある、平均年齢が占めることもある、平均年齢は毎年着実に上昇しており、また、会の財政状況の悪化に歯止めはからず、むしろ加速的に悪化して

きている。会員の減少、平均年齢の上昇が日本山岳会の財政状況に入手手続きが困難になつておられる方も多いと推測される。また、名譽会員と並ぶ会費免除制度のひとつである永年会員制度は、長年にわたり会費を払つた方の年会費を免ずる制度であり、筆者も年限の到来を心待ちにしているのではあるが、会員の高齢化に伴ない14年1月末では、326人、全会員の6・5%を占めるまでに増加している。永年会員は、長い間、会の発展に貢献していただいた方であるが、現在の会の財政としては、会費免除会員の増加は会費収入の減少につながることも苦い事実である。

前者の会費滞納の対策としては、当年度から会費の口座振替制度を導入した。しかし、ご高齢の会員ほど、口座振替制度へ変えていただけの方が多いのが実情である。また、後者の名譽会員と永年会員で、お元気で余裕のある方には、会費に代わって、任意で寄付をお願いすることを検討している。

もう一度、グラフを見ていただきたい。棒グラフの会費の上にあ

るものは、会費以外の収入である。平

日本山岳会の会費収入の減少 日本山岳会は、平成13年(2001年)に会員数が6千人を超えた。このため、グラフに見えるように、平成14年度の会費収入は68百万円を超えて最大を記録した。しかし、平成25年度(14年3月期決算)の会員数5千人強の現況の会費収入は52百万円強である。暦年の変化を表すグラフを見てわかるように、会員の減少とともに会費収入は急速に減少している。会員数が約12年間で千人減少しているが、単純に言つて普通会員の会費年12千円を掛けると、約12百万円の減少に留まるはずであるが、15百万円以上も会費が減少している結果となつていて。

その理由はふたつある。ひとつは会費滞納者の増加であり、もう一つは会費滞納者の増加であり、もう

ひとつは会費免除会員の増加である。ご高齢の会員には、会費の納入手続きが困難になつておられる方も多いと推測される。また、名譽会員と並ぶ会費免除制度のひとつである永年会員制度は、長年にわたり会費を払つた方の年会費を免ずる制度であり、筆者も年限の到来を心待ちにしているのではあるが、会員の高齢化に伴ない14年3月末では、326人、全会員の6・5%を占めるまでに増加している。永年会員は、長い間、会の発展に貢献していただいた方であるが、現在の会の財政としては、会費免除会員の増加は会費収入の減少につながることも苦い事実である。

前者の会費滞納の対策としては、当年度から会費の口座振替制度を導入した。しかし、ご高齢の会員ほど、口座振替制度へ変えていただけの方が少ないのが実情である。また、後者の名譽会員と永年会員で、お元気で余裕のある方には、会費に代わって、任意で寄付をお願いすることを検討している。

もう一度、グラフを見ていただきたい。棒グラフの会費の上にあらざることは、会費以外の収入である。平

## 崖っぷちの日本山岳会の財政

会の事業費のうち、最近の寄付金と助成金によって行なう事業を除くと、経常的な費用については、12年前の構成と大きな変化はない。平成21年度から公益会計基準による決算を採用したので12年間の比較を行なうことは難しいが、この間に経費に消費税が8%も課税されることになつたため、デフレといふことになつたため、デフレといふことはいえ事業費は確実に増加してき

ている。

一方において、会費収入は、12年前に比べて15百万円も減少しているため、公益会計基準を採用したこの5年間は、実質的に毎年5百万円を超える赤字を計上するこ

とになつていて。現在、なんとか資金難にならないでいられるのは、経費節減に努めながら過去の蓄積を食いつぶしているからである。簡単にいえば、日本山岳会は最盛期の組織・設備体制のままなのに、

会員の高齢化と減少が進み、

収入も減少して赤字に陥っているのである。しかし、こんなことを今後も続けていいわけもない。抜本的な改革を行なわない限りは、

日本山岳会の財政は破綻の道を歩み、120周年を迎えることは困難であろう。

会員の中には、現在の本部の事務所・事務局と上高

地山研の規模縮小により、

経費の削減を図れとの声も聞くが、本部の事務所と上

高地山研は、減価償却も進んだ結果、これらを処分しても経費の縮小効果は20%以下で大きくはない。経費

縮小のためには、「山」、「山岳」などの廃刊と支部助成金の廃止が最も効果があるが、これらの廃止は、日本

山岳会の運営を停止するこ

とに等しい結果になつてしまつた。

まう。会は規模の大きな法人であるにも関わらず、事務局長も置かず、役員報酬はおろか理事の交通費の支給も行なわれていないので、経費の節減はすでに限界に達している。

**財政再建と復活への方策**

暗い話ばかりになつてしまつたが財政再建と復活のための方策は、まだ残されていると考える。会が公益法人化し、山岳団体では唯一の寄付の税額控除を認められる法人に指定されたことは、現在の寄付や助成金の獲得に結実して、将来の会の事業の活性化につながる明るい兆しなつていて。

私見であるが、事業縮小による経費節減によつては財政再建と日本山岳会の再生はできないと考える。また、会費の値上げによる財政再建の方策は、会員の減少を招く結果となると容易に推し量ることができる。むしろ、寄付金と助成金を活用して事業活動を活発化して、会員の増強に努めることしか日本山岳会が生き延びる道はないのではないかろうか。

会員制度ひとつをとっても、日本山岳会には、夫婦会員と青年会



\* 本稿は、「山」1月号と2月号に続編を掲載する予定です。

(つづく)

員の会費減額制度があるものの入会には単一の会員制度しかない。しかし、ほかの公益団体や内外の山岳団体を見渡すと、正会員、準会員、賛助会員などの複数の会員制度を導入している団体が多い。また、各々の会員制度に応じて、会員サービスを設けている。会員増強のための方策には、まだまだ工夫の余地があると思える。

日本山岳会の会員には各分野に豊富な経験と知識を持つ者も多く、知恵を絞り、それを実行に移すところしか、日本山岳会が110年の伝統を守りながら生き延びる方法はないものと信じる。

# Climbing Report ザンスカール未踏峰へ

## 学習院大学山岳部 登山隊隊長 吉田周平



左が初登頂したGyalmo Kangri。手前の雪稜を登る

今回の学習院輔仁会大学山岳部によつて初登頂されたPeak Unnamed Pt. 6070 mは、印度北西部ラダック、ザンスカール地方に位置します。この地域は京都大学学士山岳会(以下、AAC K)の阪本公一氏を中心にして、7年間で探査が進み、未踏峰がまだ残されていて、氏によつて情報が開示されている地域でした。12年に日本山岳会学生部の隊が未踏峰遠征を行なつており、名前は知つていたものの、当初はあまり関心がありませんでした。未踏峰といふと現在ではいわゆる「ぼた山」あるいは登るのが難し過ぎる岩山のイメージがありました。しかし、記録を見ているうちに私たち学生の力でも登れて、なつかつ見た目も格好の良い山も中にはあることがわかりました。特に今回目標としたPt. 6070 m (L15)はこの地域ではひときわ秀麗な形をしており、心を奪わっていました。手前に延びる雪稜は明瞭だつたため、比較的危険も少なく登れるだろうと感じていました。

メンバーは学生3名、OB1名と現地スタッフを加えた少人数のエゾン・オフィサーがデリーまで

学習院輔仁会大学山岳部インディヤ登山隊2014 (G.A.C. Indian Himalayan Expedition 2014) は、7月30日から9月13日にかけて、ザンスカール地方レンック谷の未踏峰 (Peak Unnamed Pt. 6070 m) へ臨み、初登頂しました。

今回の学習院輔仁会大学山岳部によつて初登頂されたPeak Unnamed Pt. 6070 mは、印度北西部ラダック、ザンスカ

ル地方に位置します。この地域は京都大学学士山岳会(以下、AAC K)の阪本公一氏を中心にして、7年間で探査が進み、未踏峰がまだ残されていて、氏によつて情報が開示されている地域でした。12年に日本山岳会学生部の隊が未踏峰遠征を行なつており、名前は知つていたものの、当初はあまり関心がありませんでした。未踏峰といふと現在ではいわゆる「ぼた山」あるいは登るのが難し過ぎる岩山のイメージがありました。しかし、記録を見ているうちに私たち学生の力でも登れて、なつかつ見た目も格好の良い山も中にはあることがわかりました。特に今回目標としたPt. 6070 m (L15)はこの地域ではひときわ秀麗な形をしており、心を奪わっていました。手前に延びる雪稜は明瞭だつたため、比較的危険も少なく登れるだろうと感じていました。

メンバーは学生3名、OB1名と現地スタッフを加えた少人数のエゾン・オフィサーがデリーまで

戻り、買い出しするなどになりました。学生とスタッフはその間にBCを設営。下部はガラ場だったため、ルートを整備しながら5400 m地点まで荷揚げをしました。買い出しを終えて全員がBCに集結した後の8月22日、C1を飛ばして1日でのサミット・ツツィユに成功しました。上部の雪稜は水混じりで硬く、最後は6ピッチほどロープを伸ばしての山頂でした。下降時には雪に降られ、高山病にフランフランになりながらも19時30分にBC着。BCから約14時間での往復となりました。

その後の山をラダック語で、「王妃の山」を意味するGyalmo Kangri (ギャルモ・カンリ)と命名しました。この山を初めて探査しました AAC Kの阪本公一氏の報告書『季報ヒマラヤ No. 457』に、「左手の右岸に雪稜の美しい端正な山容のP 6070 (L15)が現れる。(中略) P 6070の秀麗な姿はレナック谷の王女にたとえられよう」とあつたところから発想を得ました。L15というのは阪本氏がLenak谷の頭文字Lをとつて付けた仮称であります。

今回は、客観的に見れば高度な



雪稜を登る

7月30日に日本を出国し、ラダック地方の中心地レーで登山準備をしました。BCまでは、最初の4日は車移動。残りの5日が馬に荷物を乗せてのウォーキング・キヤラバンでした。

キヤラバン途中、馬2頭が崖から落ち、荷物が川に流される事件がありました。流された物はピッケル、アイスクリュー、カラビナなどの登攀に欠かせないものばかり。しかたなく、OB1名とりエゾン・オフィサーがデリーまで



山頂にて、左からガラムカリ、原田、梶田、吉田

技術を必要としない山ですが、学生を含めた日本人隊員4名全員が登頂に成功したことを喜びました。

大学山岳部の低迷が叫ばれてもう長い年月が経ちますが、学生たちにとつてチャレンジしがいのある山は、世界中にまだまだあると思います。

今回の登山を強力にサポートしてくださった監督を含めたOB会

とコーチ会、情報提供をしていた

だいた阪本氏はもちろん、多くの

方のご支援があつて今回の学生主

体の登山ができたと感じています。

また、この登山隊は日本山岳会海

外登山基金の助成を受けています。

この場をお借りして改めて皆様に

感謝申し上げます。

### 【日程】

2014年7月30日出発

7月30日～31日デリー滞在

8月1日～2日レー滯在

8月3日～12日キャラバン

8月13日～登山期間開始

8月22日 Peak Unnamed (P.t.

6070m) 登頂

8月26日～9月4日バックキャラバン

9月5日～9月9日レー滯在

9月10日～12日デリー滞在

9月13日 帰国



## 寄付金および助成金などの受入報告

Donation Report

財務担当理事 吉川正幸

平成26年9月理事会において  
「寄付受入及び管理取扱規程」の一  
部改定が行なわれ、会員の皆様や

外部の個人・団体から日本山岳会  
が受け入れた寄付金および助成金

について、ご寄付された方のお名  
前と金額を「山」および年度の事業

報告書に掲載させていただき、顕  
彰することになりました。ただし、  
ご寄付された方が特に公表を望ま  
れない場合と、寄付金額が一万円

未満の場合には、「山」への掲載は  
行ないません。

今後、ご寄付などについては数  
ヶ月ごとに掲載させていただきます。  
9月以降の寄付金・助成金に

ついて、以下にご報告いたします。  
〔学生部女子ムスタン登山隊20  
14〕の募金によるご寄付の報告  
は、次号にまとめて掲載する予定  
です。

受入月	寄付者	金額	寄付の目的、その他
平成26年9月	土田幸雄会員	3万円	越後支部
平成26年9月	公益財団法人 安藤スポーツ・ 食文化振興財団	10万円	宮崎支部こども 登山教室実施の 活動費助成金
平成26年9月	新井信太郎 会員	10万円	埼玉支部・全国支 部懇談会へ
平成26年9月	新妻 徹 会員	3万円	北海道支部創立 50周年記念基金 として
平成26年10月	木戸繁良 会員	5万円	入会50年を 記念して

ケ月ごとに掲載させていただきます。  
9月以降の寄付金・助成金に  
ついて、以下にご報告いたします。  
〔学生部女子ムスタン登山隊20  
14〕の募金によるご寄付の報告  
は、次号にまとめて掲載する予定  
です。

〔学生部女子ムスタン登山隊20  
14〕の募金によるご寄付の報告  
は、次号にまとめて掲載する予定  
です。

N

東西南北

ウインバーと  
イザベラ・バード

大森久雄

マツターホルン初登頂で知られるエドワード・ワインパー。かたや明治初期に来日、蝦夷地まで踏み入れて卓越した記録『日本奥地紀行』を著したイギリス女性イザベラ・バード。

この二人を結ぶ線があつたとい

らしい。いま刊行されているバードのその著作は以下の通り。

(1) 高梨俊吉訳『日本奥地紀行』平凡社東洋文庫・1973年刊。

(3) 金坂清則訳『完訳日本奥地紀行』四巻。平凡社東洋文庫・2011年刊

2  
} 13年刊

(4) 同訳『新訳日本奥地紀行』平凡  
社東洋文庫・2013年刊。

さてここで問題は、その署名が  
あのウインパーなのかどうかだが  
版画のタッチ・精度・署名の書体

そのほか4の版485ページの「東京芝増上寺」にはWHと読みとれる文字がある。

どの版にも収録されている日光東照宮を照合されたい。また前記4の版120ページの茶屋の女中、4の版391ページのアイヌの長老(族長)にも署名が認められる。

2の版では印刷が不鮮明で署名が読みとれないが、3・4の版では改善されて、挿画の片隅に

刊行形体が複雑だが、いまそれは問題外で、いちばん流布しているのは1。今回の問題はこの1・2の版ではわからず3・4の版で明らかになつたことで、同書に豊富に収録されている版画(木版画・銅版画両説あり)にはワインパー作と思われるものがある。前記1・

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。（紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度でお願いします）

は『アルプス登攀記』『アンデス登攀記』（いずれも岩波文庫）のそれと酷似している。写真家の水越武さんは『アルプス』と『アンデス』で、ワインパーの版画の変化を指摘しているが（黒部と槍 冠松次郎と穂苅三寿雄）（東京都写真美術館発行図録）、私には岩波文庫版と平凡社版の版画作者は同一人と思える。イザベラ・バードとワインパー。どちらの著作も発行所は同じジョン・マレー社である。それにこの二人は時代を同じくしている（ワインパーが9歳若い）。ふたたびさて、なのだが、ではワインパーは日本に来ていたのか。

それはないことだが、水越さんの解説でもウインパーが写真技術を取り入れていたとあり、バード自身のスケッチや持ち帰った写真を基礎資料にしたものであろう。

バードの本は ICG Muse 社（2000 年刊）、タトル商会発売で原本のリプリント版があり、鮮明な図版を見て気がついた。いまごろわかつたの？ と言われてしまうことなのかもしれないが、前記のどの解説も版画作者には触れていないようだし、同書に関心を持つ知友に聞いてみると、初耳という声があつたので書いてみた。現物を見てご判断いただきたい。



図書委員会

10月3日、図書委員会主催の「山岳図書を語る夕べ」として、探検

家・ノンフィクション作家の角幡  
唯介氏による講演が行なわれた。  
地理学者たちを悩ませてきた謎  
の川、チベットのヤル・ツアンボ  
ー川峡谷の探検を描いた『空白の  
五マイル』一作で開高健ノンフィ



探検を熱く語った角幡唯介氏

クション賞、大宅壮一賞、梅棹忠夫賞、探検文学賞を総なめにした。気鋭の若手探検家が登場とあって、104号室には多くの人が集まつた。

この日、取材先のフィリピンから帰国した脚でそのままルームを訪れた角幡氏は、自身の探検や書くこと、本との出会いなどについて語ってくれた。氏は1976年生まれ。探検家としての第一歩は、早稲田大学政経学部に入学し、大学2年生のときに入つた探検部。このクラブは、何でもやりたいことができるし、なんもしくてもいい。登山ばかりしている者もあれば、東ティモ

ールで反政府ゲリラの幹部に接触したり、新宿でホームレス調査をする者もある。入部前はラグビー部に所属し、漠然とした物足りなさを感じていた若者にとって、探検部は胡散臭くも惹き付けるものがあつたそうだ。

クラブ活動から始まつた探検人生はアグレッシブで、2001年にヨットで太平洋を航海後、ニューギニア島トリコラ北壁初登。その後、02～03年にかけて前述のヤル・ツアンボー川峡谷の未踏査部、09～10年には無人地区を探検している。一時期は朝日新聞社で記者生活を送つたこともあつたが、現在はフリーで意欲的に探検と執筆活動を続けている。

話は本を出すこと、読むことに及んだ。講演などをしていると、「書くために探検することは不純」と言わざることがときどきあるそうだ。

しかし、本というものは、そのようにして読者に現場の有様を伝え、憧憬を駆り立て、多くの人をそこに向かわせてきた。過去、多くの登山家もそうであつただろうし、角幡氏が行なつた大きな探検にも、いつも先達が書いた本との

出会いがきつかけとしてある。

たとえば、ヤル・ツアンボー川に強く惹かれたのは、大学生のとき池袋ジユンク堂で見かけた『東ヒマラヤ探検史—ナムチヤバルワの麓「幻の滝」をめざして』（金子民雄）を読み、ヒマラヤ探検にまだ残された部分があると知つたためだ。

また、新宿紀伊国屋書店でアメリカの作家C・マッカーシーの『ザ・ロード』を手に取つたときは、「俺もこれを書きたい。世界最悪の旅に行かねば」と、あえて困難な北極探検へ向かつた。

19世紀に北極で消息を絶つたフランクリン隊の軌跡をたどるこの旅は、著書『アグルーカの行方』に結実し、講談社ノンフィクション賞を受賞。

探検部OBのノンフィクション作家・高野秀行が書いた『西南シルクロードは密林に消える』のあまりの面白さには、同じ書き手として嫉妬したという微笑ましいエピソードも。そんな風に、角幡氏の活動は、いくつかの大切な本によつて動かされてきた。

「探検や登山は行為そのものが表現であり、自分の存在をなんらかの形式によつて世の中に表しめる。

たとえば、クライマーが氷壁に1本のラインを残す。それによってそのクライマーの存在の凄みが知られる」。氏にとつては、ベンガ、自身が行なつた探検を残し伝える道具なのだろう。

「探検とは、単に地図の空白を目指すことではなく、人間の常識が通用する外側に飛び出すロマンを求める」。体を張つて人間が見たことのない異相を求め、その面白さを伝えることに情熱を傾げる氏の著作が、これからも楽しみである。

（松原梓）

## 聖岳～光岳縦走山行 集会委員会

「ここからしばらくは急な登りが続くから……」、「もう少し登ると平に出る……」とコースを熟知した菊池リーダーから要所要所で声がかかる。先頭を行くのはパートイ全体に気配りし、絶妙なペースメーター高橋サブリーダー。そして渉外担当、パートイの大蔵大臣、清登マネージャー。

9月18日～23日、南アルプス縦走シリーズ第2回聖岳～上河内岳～光岳の縦走に参加させていただ



聖岳山頂での記念撮影

いた。

参加会員12名、総勢15名は9月

18日の夕方、平岡駅にある龍泉閣に集合した。それぞれ支部も異なるメンバードが、あつという間に

団結したパーティとなつた。7月の雨の影響で、北又渡から先、聖光小屋までの林道の車の通行ができず、19日早朝、北又渡から5日間の縦走が始まつた。

西沢渡は水量が多く、徒渉は危ないと判断し、吊り橋ならぬ籠を利用して渡る。皆で力を合わせて渡つた。初日は薊畑までひたすら登り、聖平小屋に3時半に到着した。

20日は空身で聖岳のピストン、

前日とは異なり羽が生えたようである。薊畑から望む聖岳はどつりと大きい。小聖岳から前聖岳の登りはザラザラのガレ道で慎重に登る。前聖岳の山頂からは360度、北アルプス槍・穂高の稜線も望むことができた。記念撮影後、奥聖岳まで足を延ばす。聖平小屋に戻り、昼食はカレーライスをいただいた。

聖平小屋はこの秋の連休で小屋閉めとあつて利用者も多くない。2階はわがパーティの貸し切りで昼過ぎから大宴会で盛り上がつた。

3日目、21日は茶臼小屋までのんびり稜線漫歩である。途中空身で上河内岳をピストンする。スケッチクラブの会員であるHさんは山頂でスケッチブックにペンを走らせていた。晴天に恵まれ、富士山がずっと姿を見せていた。この日も昼前には茶臼小屋に到着し、共同食料のラーメンを作つて小屋前のテークルで昼食、そしてビルといいちこで宴会となつた。

22日は富士山の朝焼けがきれいだった。予報は晴れだったが出発

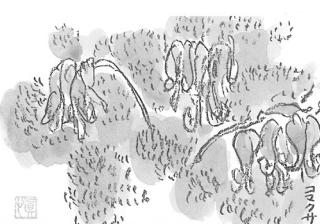
時間があたり一面ガスに覆われた。風も冷たく、茶臼岳は休憩もせずに通過。このまま悪天候となつた。

この日は光岳小屋までの少々長いコースである。三吉平から静高平までの登りが長く、きつかったが、北海道のメンバーのザックから絶妙のタイミングで梨が登場。皆で感謝していただく。水分と甘味でまさに生き返る心地だつた。

沢筋を登り切つた所でイザルケ岳の分岐。イザルケ岳をピストンして光岳小屋に到着。空身で光岳、光石を往復した。光岳小屋は数日前に営業を終了しており、夕食は自炊。楽しい夕餉と宴会となつた。水場が涸れていることを心配して十分な水を持参したが、水場の偵察に行つたA氏によれば、まず涸れることがないだけの水量があつたとのこと。

最終日は前日のコースを易老岳まで戻り、易老渡に下つた。

支部では指導の立場にある北海道からのI氏、Zさん、K氏、J氏、美味しいものがたくさん詰まつたドラえもんザックのOさん、



(成合玲子)

きのこに詳しいSさんの強者6名の面々、花にきのこに鳥に詳しいMさん、去年、茶臼岳まで来て光岳を断念したというS氏、ご家族側から見ると格好が良い。この日は光岳小屋までの少々長いコースである。三吉平から静高平までの登りが長く、きつかったが、百名山を目指してきたわけではなくたが、大学1年の夏合宿の八ヶ岳を一として、?年かかる単独行を止められているというH氏……天候とメンバーに恵まれ、最高の縦走となつた。私事だから単独行を止めているというS氏、ご家族から見ると格好が良い。この日は光岳小屋までの少々長いコースである。三吉平から静高平までの登りが長く、きつかったが、百名山を目指してきたわけではなくたが、大学1年の夏合宿の八ヶ岳を一として、?年かかる単独行を止めているとい

うH氏……天候とメンバーに恵まれ、最高の縦走となつた。私事だから単独行を止めているとい

# 支部

## だより

全国各地の支部から、  
それぞれの活動状況を、  
北から南へとリポート  
します。



達成感にあふれた久住山登山

### 東九州支部

#### 第13回青少年体験登山

13年目(13回)を迎える青少年体験登山大会。今年から「青少年登山教室」と冠を追加して、より学習性を高める山登り体験を考慮しての実施となつた。9月23日、大分駅前集合の参加者は38名、貸し切りバスで登山口の牧ノ戸峠へ。バスの中では登山上の注意事項や、

登山口の牧ノ戸峠には26名の参加者が待つていた。この日の参加者は合計64名。そのうち一般参加者は52名、青少年はさらにそのうち11名と、例年よりも多く割合が少ない。しかし、この登山教室は青少年に限らず、広く一般の初心者も対象として、より多くの人

たちに登山の体験をしてもらうことにより、山登りの楽しさや素晴らしさを知つてもらうことを目的として、13年前の『国際山岳年』の記念行事として始められたものだ。

この日は数日前から台風16号が九州本土をうかがっていたため、荒天が心配され、登山口で中止または途中でUターンも考慮しているが、やや進路がそれた関係で、薄曇りの高曇り。降らず照らずの絶好の登山日和となつた。久住山頂で合流した3つの班は、ここで昼食を済ませて下山開始。予定の午後3時過ぎに牧ノ戸峠登山口に全員元気に下山。みんなの顔は達成感にあふれていて、「また来年も」という声が飛び交つていた。登山口の広場でクールダウンの体操。出発前のウォームアップと下山後のクールダウンの大切さも解説する。そして支部長の挨拶で閉幕し、マイカー組は峠で解散、バスの組は大分駅前で解散。天気にも恵まれて、意義ある登山教室として終

ることとなつた。

宮崎支部のこども登山教室の特徴は、1泊2日の宿泊を伴い、保護者の参加は認めず、子どもたちが親元を離れ一人で参加することによってほかの仲間と力を合わせ、支部会員のサポートを受けながら、自分自身の力でいろいろと挑戦・経験すること。併せて強い精神力や忍耐力、協調性、責任感を持たせ、日ごろ体験することが少ない自然環境の中で動植物に触れ観察することを通して、豊かな感性や探求心を養うというものです。

17回を迎えたこども登山教室

当初8月9日(土)~10日(日)を予定していたこども登山教室は、台風11号接近のため10日延期し、8月19日(火)~20日(水)に実施することとなつた。

# 宮崎支部

17回を迎えたこども登山教室

当初8月9日(土)~10日(日)を予定していたこども登山教室は、台風11号接近のため10日延期し、8月19日(火)~20日(水)に実施することとなつた。

宮崎支部のこども登山教室の特徴は、1泊2日の宿泊を伴い、保護者の参加は認めず、子どもたちが親元を離れ一人で参加することによってほかの仲間と力を合わせ、支部会員のサポートを受けながら、自分自身の力でいろいろと挑戦・経験すること。併せて強い精神力や忍耐力、協調性、責任感を持たせ、日ごろ体験することが少ない自然環境の中で動植物に触れ観察することを通して、豊かな感性や探求心を養うというものです。

本年度は日程の変更もあり、若干参加者が少なくなつたが、1日目は、午前6時に総勢31人(子ども17人・支部会員14人)が元気に大型バスにより宮崎から鹿児島県鹿屋市に向け出発した。

午前10時前に最初の見学先である海上自衛隊鹿屋航空基地資料館

として、13年前の『国際山岳年』の記念行事として始められたものだ。登山口の広場で支部長が挨拶。山道での注意事項や歩き方なども指導。全員でウォームアップの柔軟体操のあと、健脚組、元気組、のんびり組の3つの班に分かれて登山を開始。健脚組は九州本土の最高峰、中岳まで足を延ばして目的の久住山へ。元気組は途中の星生山へ寄り道して久住山へ。のんびり組は寄り道せずに久住山へ。こ

の日は数日前から台風16号が九州本土をうかがっていたため、荒天が心配され、登山口で中止または途中でUターンも考慮しているが、やや進路がそれた関係で、薄曇りの高曇り。降らず照らずの絶好の登山日和となつた。久住山頂で合流した3つの班は、ここで昼食を済ませて下山開始。予定の午後3時過ぎに牧ノ戸峠登山口に全員元気に下山。みんなの顔は達成感にあふれていて、「また来年も」という声が飛び交つていた。登山口の広場でクールダウンの体操。出発前のウォームアップと下山後のクールダウンの大切さも解説する。そして支部長の挨拶で閉幕し、マイカー組は峠で解散、バスの組は大分駅前で解散。天気にも恵まれて、意義ある登山教室として終

(飯田勝之)

る海上自衛隊鹿屋航空基地資料館



大隅青少年自然の家をベースに元気に活動した子どもたち

る。子どもたちは職員から装具着装のレクチャーを受けた後、炎天下の中、汗だくになりながら転んではまた起き上がり必死に練習を重ねていた。やがて全員が上手に滑れるようになり、子どもたちのバランス感覚の良さと飲み込みの早さに感心させられた。

その後、フィールドアスレチックの中の「猿の散歩道」を歩いて本館に帰り、午後5時からの夕べのつどいに参加し、当日、青少年自然の家に入所していたほかの7団体(276人)と団体紹介をし合って交流を図ることになった。入浴で展示してある遺書、遺品や写真を見学しながら当時、鹿屋から特攻として908人の若い尊い命が散つていったことなどの説明を受け、改めて戦争の愚かさと平和の尊さを学ぶことができた。

その後、昼食を基地内のレストラン休憩所で済ませ、12時過ぎに宿泊と野外活動の拠点となつている鹿屋市内にある国立大隅青少年自然の家に向かい、入所式を済ませた後、野外活動に移った。

野外活動のインラインスケート場がある場所は、高隈山系が眺望できる標高約250mの高台にあ

り到着し、始めてDVDにより館内の説明を受けた後、職員の案内で展示してある遺書、遺品や写真を見学しながら当時、鹿屋から特攻として908人の若い尊い命が散つていったことなどの説明を受け、改めて戦争の愚かさと平和の尊さを学ぶことができた。

角点959m)登山。

謝し、1日目の活動を終えた。

2日目は、本番の稻尾岳(枯木三

午前6時に起床し、あわただしく清掃、朝のつどいに参加、朝食、各部屋の点検を受けた後、午前8時30分退所式を終えて、稻尾岳登山口にある稻尾岳ビジターセンターに向かつた。天候は雲行きが怪しく、途中で雨がぱらつき始めた。稲尾岳ビジターセンターに到着すると、センターで所長さんより稻尾岳山系の照葉樹林帯、動植物の生態系について説明を受けた。

いよいよ登山の出発となり、そこにはなんとか雨は上がつたが、周囲の山々には霧がかかり雲行きが怪しい。会員は子どものザックにビニール袋をかぶせて防水対策を施し、再度山行委員長が登山上の注意をして、午前11時登山道西口からを低学年を先頭にして登山を開始した。会員は、サポートするため子どもとの間に入り注意深く進む。しばらくは、沢筋を使つて製作、でき上がつたオリジナル作品を互いに手に取り合つて見せ合い喜ぶ姿がほほえましく印象的だった。予想以上の成果を収めたことに満足して、楽しい時間過ごすことができたことを感謝し、1日目の活動を終えた。

下山途中の沢の清流の中では、子どもがオオスミサンショウウオの幼体を発見し、その周りに会員も子どもも集まり大騒ぎであった。午後3時30分、全員無事に下山して帰途につき、午後7時55分に子どもたちの父兄が迎える新富町にあるJA駐車場に到着した。到着後解散式を行ない、子どもたちを保護者に無事に引き渡すことができてほつとした。

上がるごとに歓声を上げ登山の実感を味わっていた。

沢を登り切った所で、ミヤマシキビ・アセビ・ヤブツバキなどの灌木林が密生する尾根に出る。尾根の途中には、唯一展望が利く「自然石展望台」があるが、残念ながら霧のため視界は全くなかつた。展望台から30分かかり、午後1時に稲尾岳山系の最高地点、85番札の尾岳山系の照葉樹林帯、動植物の生態系について説明をすると、こどもたちは質問などもあり、熱心に聞き入つていた。当初は稻尾岳までの登山計画であつたが、天候と帰途の時間などを考慮し、枯木三角点で折り返し、昼食をとつた後下山することとした。

下山途中の沢の清流の中では、子どもがオオスミサンショウウオの幼体を発見し、その周りに会員も子どもも集まり大騒ぎであった。午後3時30分、全員無事に下山して帰途につき、午後7時55分に子どもたちの父兄が迎える新富町にあるJA駐車場に到着した。到着後解散式を行ない、子どもたちを保護者に無事に引き渡すことができてほつとした。

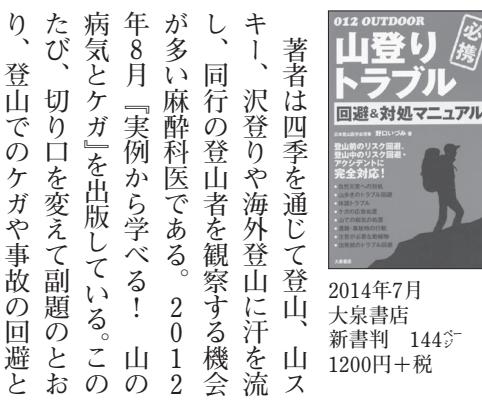
宮崎支部のこども登山教室は、本年で17回を迎えたが、参加者の子どもの中には早くも来年の参加を約束する者もあり、また、保護者からは多くの感謝の言葉や継続の声が寄せられている。支部とし

ては、2年後に迎える「山の日」施行に向かって、こども登山教室を通してこれらの期待に添えるよう、さらに充実したこども登山教室を続けていきたいと考えている。

(水永一芳)



## 図書紹介



2014年7月  
大泉書店  
新書判 144P  
1200円+税

### 『山登りトラブル 回避&対処マニュアル』

著者は四季を通じて登山、山スキー、沢登りや海外登山に汗を流し、同行の登山者を観察する機会が多い麻醉科医である。2012年8月『実例から学べる! 山の病気とケガ』を出版している。このたび、切り口を変えて副題のとおり、登山でのケガや事故の回避と

1章..自然災害。私たちはつい最近、木曽の御嶽山の噴火爆発によつて魅力的な大自然の中に大きな落とし穴があることを再認識した。

最初の自然災害の項目では、天候が急変してしまったとき、落雷、落石とともに、火山ガスから身を守る方法を記している。赤枠でポイント【火山近くの窪地にガスが滞留しやすい、事前に地元の情報などを調べておく、巻き込まれたら濡らしたタオルで口を覆い風上に避

体的に平易な言葉で書かれ、多くのイラストと写真が理解を助けている。

難】。そして黒枠で【倒れた人がいても単独で救助に向かわない】。イラストを使いその善後策も記している。このように全項目で赤枠と黒枠で明記し、読者の目に留まる方、沢や川で溺れた人を見つけるら、と具体的な解説がある。

2章..トラブル回避。登山前の効果的なストレッチ、歩き方、休み焼け、低体温症の防止、また、バテないノウハウなどもあり、ベランも納得するだろう。

3章..体調。登山で多い脱水、日焼け、低体温症の防止、また、バテになる。必携の携帯電話にも弱点があり、と。

4章..ケガ。捻挫、足がつった、ぎっくり腰など思わぬケガや頭を打つた人への対処がイラスト入りで丁寧に記され、現場で大いに参考になる。必携の携帯電話にも弱点

5章..病気。お腹の異変、胸の痛み、持病のある人の注意点、人工呼吸やAEDの使用方法もあり日常生活でも役立つのでありがたい。

6章..遭難。救助要請時の心得は緊急時に心強い。負傷者運搬、道迷い、地図の読み方、ビバークのノウハウもうれしい。GPSの功罪も一目に値する。

7章..動植物。かぶれ、虫刺されなどは普段でも有効な知識だ。ク

マ、イノシシとの遭遇を避ける対策など平素からの注意を喚起している。

8章・出発前。天気を予測する力を磨く。山での衣類、必要な装備、効果的トレーニングも登山者には欠かせない情報だ。

日本登山医学会理事で、JAC理事でもある著者は、初心者向けに執筆したよう、登山講習会のテキストに好適である。だが、登山活動百科事典のコンパクト化されたもので、ベテランにも指南が多いであろう。皆さんに読んでいただき、登山に携行してほしい小冊子である。

(南井英弘)

### ヤマケイ新書

山野井泰史著

『アルピニズムと死』 僕が登り続けてこられた理由  
辰野 勇著

『モンベル7つの決断』 アウトドアビジネスの舞台裏  
大森久雄編

『山の名作読み歩き』 読んで味わう山の楽しみ  
篠原芳樹著

『体験的山道具考』 プロが教える使いこなしのコツ  
篠原芳樹著

創刊された「ヤマケイ新書」の最初の4冊。トップクライマーのクライミング談義に始まり、アルパインスタイル的経営者のアウトドアビジネス論、そして山の芸術作品のアンソロジーに、山の道具の解説書というラインナップで、登山にまつわる各部門のそろい踏みを思わせるようなしつらえになっているが、どれも読んで面白いこ



2014年11月  
山と渓谷社  
新書判 288頁  
定価 800円+税



2014年11月  
山と渓谷社  
新書判 192頁  
定価 760円+税



2014年11月  
山と渓谷社  
新書判 192頁  
定価 760円+税



2014年11月  
山と渓谷社  
新書判 192頁  
定価 760円+税

とは確かだ。

### 『アルピニズムと死』

山野井氏の登山人生は40年にわたって続けてきた。そう言わると、日本人ならずとも感慨深い。よくここまで、というのが率直な気持ちだろう。ひと言で言えば、要するに「天国に一番近い男」と呼ばれながらも、命を落とさなかつたことだ。

山野井氏は、今、登山人生がひとつ転換点にさしかかっていることへの思いから、それまでの軌跡を振り返っている。その間に、彼の山登りはスタイルの変容を示しているが、そのすべてが常に限界への挑戦であつたことはあらためて言うまでもない。それらを読み返すことで、読者もスリリングな時間を味わえるが、登山は、人間同士の戦いではなく自然を相手にするものであるがゆえに、自然に対する人間としてのありよう、いわば人間性の深みが否応なく表現されてしまう。こうした、エクストリームでありながら人間味あふれるクライミングの消息に触れられることが、かけがえのない魅力となつていて。

『モンベル7つの決断』 辰野氏の場合、彼の原点には登山があつたという。そして、登山においてもビジネスにおいても自らを冒険者と見なしてきたようだ。アイガード壁日本人第2登成し遂げ、資金ゼロからモンベルを起業する辰野氏の姿は、チャレンジ魂に満ちあふれている。その点で「おわりに」に紹介されている「人はなぜ冒険するのか」という問いをめぐっての心理学者との会話が面白い。

それによれば、冒険心を持つて他人のやらないことに挑む人間というものは全人口の0・5%足らずしかいない。それは神が作った「突然変異」のようなもので、彼らこそが人類の先駆者になるという話だ。そうした冒険者としての自覚が辰野氏を支えているのだろうが、その彼が下した7つの「決断」の経緯を、ここで披瀝しようとしている。彼の伝えたい思いが、今後、あとに続く者たちにとつて立ち向かうべき決断のための「道標」となれば幸いだ、とも言い添えられている。

実は辰野氏の人生を賭けた決断は、0・5%の冒険者だからこそ行ない得た孤独な営みであつたこ

違ひあるまいが、では、彼が語るうとする言葉とは、ほかの99・5%の人たちにどう聞き取られるものなのだろうか。単に勇気と元気をもらえるだけのサクセス・ストーリーに終わらせないとしたら、どうすればよいのか、それは読者の側が適宜折り合いをつければ済むだけのことなのか、読んでみてそんなことが心に残っていた。

### 『体験的山道具考』

笛原氏の本は、まさしく実践的な内容で、山の道具とどのように付き合つたらよいかを教えてくれる一種のハウツー本といつても構わないのだが、きわめて良質に書き上げられている。研究熱心な著者のことだから、紹介されている各道具に関する、昨今の段階では最も的確な知識に裏付けられてることは言うまでもないが、それとともに、読んでいておのずと伝わってくるのが、著者の道具に対する愛着だ。登山は、特に道具との関わりが強いスポーツだろう。ほとんどフェティッシュとさえ言つてもいい。山とともに歩きとも登る道具たち、時には命を預けさえする。われわれ一般の登山者

でも、いい道具や靴と巡り合つたときの喜びの経験を、きっと持つているはずだ。

笛原氏の場合には、登山者としての使う側の立場と登山道具店勤務という売る側の立場の二つが、彼の長い登山道具との付き合いの中に共存していることが、彼の話をいつそう味わい深くしている。そこから、彼ならではの道具を使いこなす実践的知恵というべきものが生まれてくるのであって、山の初心者からベテランまで幅広く役立つ道具論が展開されている。それは、語り口の妙味と相まって実際に楽しい読み物に作り込まれている。

### 『山の名作読み歩き』

山のアンソロジーを組むとした大森氏はまさに最適任だが、今回、彼のこだわりの跡が明確に読み取れるできになつていていることは言うまでもないが、それがともに、読んでいておのずと印象深い。一気に通して読み終わつたとき、全体が一つの作品になつているような読後感を得られた。

「おわりに」には、「作品の配列は見ておわかりのように、全体がひとつつの物語、あるいは大きな流れとなるよう、起承転結を考慮し

ました」と書かれているが、とはいえた「山に入る日・山を出る日」に始まり、「山は終生の友」で結びとする目次の配列(ただし、目次の最終タイトルはウェ斯顿の英語の作品を見ただけでは、なにがしかの予感は与えられても、やはり全体を読んでみなければ、そこにどのような物語が紡がれるかを前もつてイメージできるものもあるまい)。

こうした書物は拾い読みも楽しめ、ぜひ一度は通して読むことを勧めたい。そうすることで、編者の広い山岳文芸への造詣と自らの登山実践とがないませになつて醸し出される、ふくよかな登山文化の香りを十分にききわけることができると思うからだ。そこに、「山登りが単なる肉体運動ではなく一種の精神活動を伴う行為」だとする理解に通ずる大森氏自身の登山観を重ね合わせることも可能だろうが、それはまさしく、山の文化の中で歴史を通して培われてきたものであつて、そこでは、編者の言葉を借りるなら「うらやましいほどに山と仲良く」交わりを結んでいる様に出逢うことができる。編者は、アンソロジーの選定

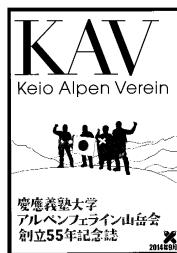
にあたつて、書店で容易に手にすることのできる文庫などで読める作品との重複は避けたと言つていい。そこで、現状では手に入りにくい作品を選んだというのが意図だろうが、こうした仕方で作品の存在を知るよすがが与えられるに気持ちが募つてくる。

先日のこと、ふと登山用具店に入つたら壁にヤマケイ新書のポスターが貼られているのを見た。「登山がほかのスポーツやレジャーと違うところは、そこに『文化』が育まれているということです。」だから「山は知れば知るほど面白い……登山に深みを与えてくれる知識の泉」がこの新書だと、そこには書かれていた。ぜひそうした文化創造的なシリーズになることを願つて。手堅い執筆者の書き下ろしによつて、時代の要請に即応できる啓蒙書を提供するということが新書本来の使命だろう。山の新書ができたことを喜ぶとともに、それと並んで、すでに指摘したような山の古典に直接親しむ機会が与えられることも必要だ。この面では、ヤマケイ文庫の役割を忘れてはなるまい。両者が手を携

えて山の文化をいつそう育んでいくことを期待したい。

(飯田年穂)

## 慶應義塾大学アルペングライン 山岳会編 『KAV Keio Alpen Verein』



2014年9月  
55年記念誌製作委員会  
B5判 304ページ  
定価 なし

リ(6187m)の初登頂ほか、メラ・ピーカ、アイランド・ピーカの登頂は素晴らしい。このコンデ・リ遠征も、座談会形式で、日時の具体的な記録がないのが残念である。初登頂であるので記録は今後の参考にもなる(ほかの会報、報告書があるのであれば容赦)。現在、大学山岳部が置

所屬しているとのことなので、模倣できるわけでもない。

現在も50名を超える現役会員が所属しているとのことなので、大学生活における「山登り」の意義を大いに広めて、今後のご活躍を祈る。

(岡部 紘)



## 平成26年度第7回(11月度)理事会 議事録

日時 平成26年11月12日(水)19時00分～20時25分

場所 日本山岳会集会室

【出席者】森会長、節田・黒川・古野各副会長、高原・吉川・佐藤各常務理事、勝山・山田・野口・大槻・落合・川瀬・山賀・直江各理事、吉永・浜崎各監事

会長の福田耕三氏をはじめとし、何人かの会員は高校、大学で体育会山岳部に在籍されていたメンバ

ーで、その情熱を失わずに継続さ

れて、ヒマラヤの未踏峰コンデ

【審議事項】

【欠席者】なし

- 1・第16回(平成26年度)秩父宮記念山岳賞の授賞について
 

10月16日に開催された秩父宮記念山岳賞審査委員会において推薦された別添議案について審議した。  
・受賞候補者…大澤雅彦(当会会員)  
・業績…湿润アジア山岳の垂直分布帶の成立と保全に関する生態学的研究(賛成15、反対なしで承認)
- 2・入会希望者について
 

標記について、別添議案により21名(1団体復活含む)の入会につ

いて審議した。〈賛成15、反対なし  
で承認〉

#### 【協議事項】

##### 1・海外支部(カトマンズ)について

カトマンズ在住の日本山岳会会員から要望のあつた海外支部の設立に関し協議を行ない、支部に関する規程の適用は困難であることから、新たな位置付けについて引き続き検討することとした。

##### 2・平成26年度支部長会議（12月6日）について

支部長会議における議題等について協議を行なつた。

#### 【報告事項】

##### 1・110周年記念事業実行委員会(黒川)

10月7日に開催された第15回110周年記念事業実行委員会の模様について、別添資料に基づき報告があつた。

##### 2・会員増強・財政基盤検討PT(黒川)

会員制度に関する検討を行なつてみると、別添資料に基づき報告があつた。

##### 3・寄付金に関する事項について(吉川)

永年会員からの寄付金受入報告1件、学生部女子ムスタン登山隊への寄付金の受入等について、別添資料に基づき報告があつた。

##### 4・期中監査の実施（12月9日、10日）について(吉川)

監査法人による期中監査が監事同席で行なわれるとの報告があつた。2013年は現地事情により中断していたマッキンリーにおける高所気象観測が本年から再開され、観測機器の設置が完了したとの報告があつた。

- 6・「日本山岳会主催山行に係わる登山計画書の提出及び事故連絡要領」制定について(川瀬)**  
遭難対策委員会において決議した旨の報告があつた(H.P記載)。
- 7・雪崩講習会の実施について(古野)**  
YOUTH CLUB主催で、平成27年1月17日(土)～18日(日)の間、国立登山研修所(富山県立山町)において開催するとの報告があつた。
- 8・山岳遭難防止セミナーの開催について(川瀬)**  
遭難対策委員会主催で平成26年11月25日(火)に長野県警山岳遭難救助隊から講師を迎えて、東京体育館で開催するとの報告があつた。
- 9・平成26年度上期海外登山助成金授与登山隊情報について(古野)**  
標記登山隊の登頂等の動向について報告があつた。
- 10・第30回全国支部懇談会(埼玉支部)の実施について(森)**  
約200名が参加し盛会であつたとの報告があつた。
- 11・上高地山岳研究所利用状況等について(大槻)**  
2005年以降10年間の説明があり、本年度の利用者数は、この期

- 間では最高の882人であつたとの報告があつた。
- 12・(株)アーベルソフト、(株)セールスマックスドットコムとの来年度契約解除について(高原)**  
会員管理システムの更改に伴い、従来の契約は来年度以降更新しないこととするとの報告があつた。
- 13・「JAC説明会」開設について(高原)**  
総務委員会から、入会希望者向けの説明会を、2015年2月以降実施することについて別添資料により報告があつた。
- 14・平成26、27年度決算・予算、事業報告・計画日程について(高原)**  
標記について説明があつた。
- 15・辻沢賢信氏から『山岳』第5年第1号の挿絵・写真を転載したいとの申し出があり許可した。(節田)**

- 【連絡事項】**
- 1・気象庁からの活火山登山者向け情報の提供開始について**  
2・岳都・松本「山岳ファーラム2014」(11月29日～30日)の開催について
- 3・静岡森林管理署からの富士山国有林におけるニホンジカの重点的捕獲について**
- 4・植村冒險館から「北極・凍る海」展開催(～1月21日)**
- 5・日本ネパール協会設立50周年祝賀会(12月6日)**
- 6・日本労働者山岳連盟望年会(12月5日)**
- 7・日本ヒマラヤ協会華甲望年会(12月13日)**
- 16・黒部市長から展示のためのウエストン写真画像の提供依頼があり許可した。(節田)**
- 17・日本登山医学会からの第35回学術集会名義後援依頼があり許可した。(野口)**
- 18・(株)スタイルゼロから登山用GPSに「三百名山JAC選定」と表示することについての申請があり**

<b>平成26年度第8回(12月度)理事会案内</b>									
日時	平成26年12月10日(水)19時より	1月18日(日)～20日(火)	5・年末年始閉室	12月27日(土)	以上	1月5日(月)			
場所	日本山岳会集会室								
議題	1・入会希望者について 2・その他								
1・気象庁からの活火山登山者向け情報の提供開始について	2・岳都・松本「山岳ファーラム2014」(11月29日～30日)の開催について	3・静岡森林管理署からの富士山国有林におけるニホンジカの重点的捕獲について	4・植村冒險館から「北極・凍る海」展開催(～1月21日)	5・日本ネパール協会設立50周年祝賀会(12月6日)	6・日本労働者山岳連盟望年会(12月5日)	7・日本ヒマラヤ協会華甲望年会(12月13日)	16・黒部市長から展示のためのウエストン写真画像の提供依頼があり許可した。(節田)	17・日本登山医学会からの第35回学術集会名義後援依頼があり許可した。(野口)	18・(株)スタイルゼロから登山用GPSに「三百名山JAC選定」と表示することについての申請があり
13日	総務委員会	海外委員会	休山会	山想俱楽部	YOUTH CLUB	バックカントリークラブ	YOUTH CLUB	常務理事会	YOUTH CLUB
14日	スケッチクラブ	LUB	山岳地理クラブ	YOUTH C	YOUTH CLUB	YOUTH CLUB	YOUTH CLUB	YOUTH CLUB	YOUTH CLUB
15日	総務委員会	自然保護委員会	資料映像委員会						

## ルーム日誌 11月

## Climbing&Medicine · 65

### 蚊が媒介するデング熱

秦 和寿



東京中の薬局の店先から虫除け剤(忌避剤)が消えた。代々木公園で発生したデング熱騒ぎのためである。当初、一過性のものかと思われたが、同公園を軸に8月26日から10月8日までデング熱に感染した者は157名にのぼった。国内では約70年振りの発生である。1942年から1944年に流行が長崎など西日本で起こり、このときは推定20万人が感染したと言われる。

#### 媒介蚊2種

デング熱は蚊のネッタイシマカ(熱帯縞蚊)が媒介する。この蚊は日本に生息しない。国内で媒介能を有するのはヒトスジシマカ(一筋縞蚊)である。微小ですがやい黒い蚊で、中胸背板に1本の白い筋があることからこの名が付いた。自宅の庭で刺されるのはこの戴蚊で、昼間からしつこく人を刺す。

今回の感染は、海外でデング熱に感染した人が来日し、代々木公園のヒトスジシマカに吸血され、同蚊がデングウイルスを保有し、感染環ができる上がった。ヒトスジシマカは1回デングウイルスを保有すると、生涯ウイルスを保持する。同蚊が人を吸血すると、唾液腺にあるウイルスを注入して感染させるが、感染率は必ずしも高くない。また、発症しない不顕性感染も多い。ヒトスジシマカが不顕性感染の人を吸血してもデ

ング熱を発症させない。アカイエカなどほかの蚊が吸血しても感染は起きず、犬やネコには感染しない。特定種だけが感染を起こす機序はよくわからない。蚊とウイルスと人との関係は微妙で複雑である。

#### 蚊の吸血を防ぐ

さて、蚊の吸血からどうやって身を守るか。蚊などの昆虫は、人の呼気の炭酸ガス(二酸化炭素)を検知する。外気は通常400PPMだが、人の呼気は40,000PPMの炭酸ガスが含まれるので蚊はすぐ感知する。また、白色よりも黒色に誘引される。服の上からも吸血するので完全に防ぎきれない。

感染の恐れがあるときは虫除け剤(昆虫忌避剤)を活用する。成分はディート(Diethyltoluamide)である。国内産の市販品は濃度が7~10%程度であり、海外製品の数分の一の濃度で、比較的安全である。直接塗布するので使用を控える人もいるが、注意点は顔や傷口には使わず、大量かつ長期に使用しないことなどがあげられる。感染症対策の虫除けとしては第一選択である。ほかにハッカなど植物由来の天然物系の製品もある。昔ながらの蚊取り線香も復活したようだ。

今回のことが示すように、海外の熱帯地方の登山をするときは消化器系の感染症のほかに、マラリアやデング熱など蚊が媒介する感染症も念頭に入れ、対策をとる必要がある。

なお、過去のコラムは次の手順でご覧になります。ご活用ください。日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→医療委員会 <http://jac.or.jp/info/iinkai/iinkai.html>

希代のクライマー・山野井泰史氏が、自身の登攀を、エピソードを交えながら語ります。ヒマラヤ、南米、アメリカなどでビッグウォール挑戦、ソロ、初登攀、ルート開拓など、内外の興味深い話です。山野井氏は現在、奥多摩在住。

### ◆山野井泰史講演会

東京多摩支部

I N F  
O R M  
INFORMATION



東京多摩支部設立五周年を祝し、久々の登板です。

日時 2015年2月1日(日)午後

会場 京王プラザホテル八王子4階(宴A)

会費 500円(資料等)

申込 1月20日までに八木五郎へ。

TEL

090-3518-9792

18日	総務委員会	110周年記念事業実行PT	集会委員会	スキークラブ
20日	三水会	青年部	つくも会	ფოトビデオクラブ
21日	委員会	支部事業委員会	みちのり山の会	科学委員会
22日	総務委員会	YOUTH CLUB	麗山会	YOUTH CLUB
23日	学生部	公益法人運営委員会	山遊会	麗山会
24日	総務委員会	山の自然学研究会	資料映像委員会	YOUTH CLUB

会員異動(11月分)	物故	退会	11月来室者	431名
国武高(9658)	戸石一生(12731)	小笠孝(5041)	京都・滋賀	14.14.
伊藤武(13962)	横田和雄(8244)	横田和雄(8244)	京都・滋賀	11.10.
安藤暢子(15258)	武田久雄(12326)	武田久雄(12326)	宮崎	1.29
東海	伊藤武(13962)	伊藤武(13962)	東海	

✉ reight0910@y8.dion.ne.jp

◆アーカイブ映画『カンチヨハバコ  
ンガ縦走 日本山岳会登山隊の記  
録1984年』上映・トーク会

資料映像委員会

当会所蔵のフィルムよりセレクトした映画(45分)を上映。さらに登攀隊長を務めた重廣恒夫会員に登攀や撮影の解説をしていただきます。定員を超えたときは立ち見となりますことご了承ください。

日時 平成27年2月19日(木)午後6時～8時

解説 重廣恒夫会員

会場 日本山岳会104号室  
定員 40名

問合 ☎jacshiryo102@jac.or.jp  
\*参加費無料、会員外の参加も可。

◆冬の八ヶ岳・編笠山山行

冬の編笠山を富士見高原スキー場より往復する。歩程約8時間

日程 3月7日(土)～8日(日)  
集合 7日14時 JR小淵沢駅  
宿泊 富士見高原・八ヶ岳苑鹿の湯  
解散 8日16時 富士見高原

費用 1万7000円(宿泊・保  
険料ほか)

集会委員会

申込 10名  
申込 2月7日までに、成瀬ヒサ  
FAX 045-933-6826  
TEL 045-933-6676  
✉ syukai@jac.or.jp  
\*申込み者に詳細案内を送ります。

◆関西支部設立80周年記念式典の  
「J案内」 関西支部

関西支部は1935年9月1日に設立され、来年には設立80周年を迎えます。これを記念して、支部では記念式典・フォーラムの開催、80年史の発刊、記念海外登山隊の派遣などに取り組んでいるところです。このたび式典・フォーラムの骨子が決まりましたのでご案内申し上げます。会員各位多数のご参加をお待ちしております。

日程 平成27年5月30(土)～31(日)  
1日目：記念式典・フォーラム、祝賀会(受付13時30分、開会14時30分)

フォーラム：「但馬が生んだ孤高の登山家、加藤文太郎と植村直己」  
①松浦輝夫氏の講演「孤高の登山家植村直己を語る」  
②加藤芳樹氏らの加藤文太郎の朗読劇「山の声～ある登山家の追

想～」  
③リピート山中氏の歌とトーク  
「孤高の人～加藤文太郎の歌～」  
2日目：記念山行 3パーティに分かれて六甲山登山  
A班・阪急芦屋川駅～高座の滝～ロックガーデン～六甲最高峰(B班・東お多福山登山口～東お多福山～六甲最高峰(約3時間半)～福山～六甲最高峰(約3時間半)C班・神戸北野異人館散策(約2時間)～バスで六甲最高峰山頂で昼食。記念写真撮影後、バスで有馬温泉へ移動、入浴。その後、バスで新神戸、三宮へ(17時ごろ解散予定)  
会場 ホテル北野プラザ「六甲莊」  
神戸市中央区北野町1-1-14  
(新幹線新神戸駅の近く)  
定員 式典・フォーラム150名、記念山行90名

費用 祝賀会参加費1万円(式典・フォーラムのみは無料)  
参加費3000円(弁当代、バス代、入浴料)

宿泊 希望者には、六甲荘を斡旋します(1泊朝食付き1万1000円)  
申込 氏名、住所、電話番号、会員番号を明記の上、2015年

3月末までに、関西支部式典担当宛、郵送またはメールで  
〒530-0015 大阪市北区中崎西1-422 梅田東ビル304号

✉ kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp

\*申込者には詳細を連絡します。

\*祝賀会と記念山行の参加は、日本岳会会員および関西支部会員に限ります。

問合せ 関西支部・金井良穂まで。  
携帯電話090-8206-9566

■訂正とお詫び  
「山」834号4ページ「支部登山者講習会開催さる」の記事中、講師のお名前を間違えて掲載してしまいました。最上段の右から7行目、溝田康史弁護士のお名前は「溝手康史」です。訂正してお詫び申し上げます。

(支部事業委員会委員長 宮崎紘一)

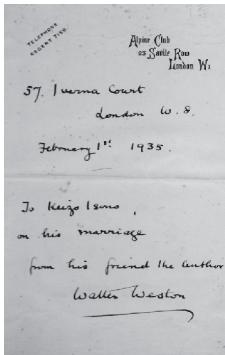
同号19ページ「日本山岳会所蔵資料紹介No.16」に以下の誤りがあります。日本山岳会協会の創立会員の一人、「末光清」は「末光績」の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。(資料映像委員会)

# 日本山岳会所蔵資料紹介 No.17

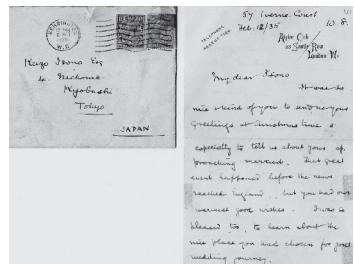
[資産番号] 00370  
 [資料名] W・ウェ斯顿から磯野計藏への自筆手紙  
 (1935.2.12付)  
 [部門名] 書簡  
 [寄贈者] 磯野家  
 [受入日] 1968年2月



W. Westonの著書表紙



結婚祝いのギフトカード



W. Westonからの手紙(ローラーに展示)

本会会員であった磯野計藏(会員番号1186)よりW・ウェ斯顿と交わした書簡(ローラーに展示)および1987年「磯野文庫」が寄贈されている。

磯野は1931年、東京商科大学を卒業。在学中の1928年ごろ、渡欧時にウェ斯顿宅を訪ねている。その後、1933年商社実務研修のため渡英。この時期、ヨーロッパアルプス各地を登山。これらの渡欧を通じてウェ斯顿と懇意になったものと思われる。

手紙は、前年のクリスマスの挨拶とともに近々結婚することや新婚旅行のことを連絡した磯野の手紙に対し、ウェ斯顿からのお礼と結婚祝いと思われる。

(手紙の訳(原文どおり)、一部判読不明箇所○○あり)

「親愛なる磯野様：クリスマスの挨拶と、とくにあなたが結婚間近なことの手紙を送ってくださいありがとうございます。英国に情報が入る前に素晴らしい事を知りましたが、幸福をお祈りします。結婚旅行に大変良い場所を選んだことを知り私も大変嬉しいです。どこに新居を定めたのでしょうか？ 松方三郎から彼と家族全員の写真の素敵なクリスマスカードを貰いました。大変素晴らしい仲間の横さんと着物姿の奥様の写真を数年間受取りました。もしカラーでしたら大変華麗に見えることでしょう。12月のアルパインクラブ晚餐会で、あなたの事を思い出していました。今回もクリス・デービス氏は私の招待者で以前の様に同じテーブルでしたが、反対側に座りました。我々の隣には今回も日本の招待者で日本山岳会員の○○代表者の石川さんが居ました。それで、今回も大変おもしろい雰囲気でした。昨年7月もまたインテラーケンのピクトリアホテルで過ごし、あなたのことを度々思い出していました。沢山の関心のある事を勉強した英國教会近くで撮った小さな写真を今でも持っています。この写真は日本の友人たちや日本旅行の事を想い出させてくれます。『日本アルプス』の私の古い本を差し上げられる事が出来るので大変嬉しいです。巻頭にD.W.F.の文字を見つけるでしょう。これは昨年亡くなり蔵書が売却された、偉大な山岳探検家ダグラス・W・フレッシュフィールドが一時所有していた本である事を意味します。私からの結婚祝いの贈り物としてこの本をお受けください。結婚生活をお祝すると共に、ご多幸をお祈りします。ウェ斯顿夫人と私からよろしく。あなたの誠実なる友人、ウォルター・ウェ斯顿」

(ウェ斯顿が磯野に贈った『日本アルプス』は「磯野文庫」に含まれていて、D.W.F.のサインが読み取れます)

なお、日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→資料映像委員会へアクセスすると、「会報ページそのもの」を「拡大およびカラー」で見ることができます。活用ください。また、公開資料に関する情報・ご意見・ご教示など、次までお寄せください。

jacshiryo102@jac.or.jp (資料映像委員会)

◆編集後記◆

## 日本山岳会会報 山 835号

2014年(平成26年)12月20日発行  
 発行所 公益社団法人日本山岳会  
 〒102-0081  
 東京都千代田区四番町5-4  
 サンビューハイツ四番町  
 TEL 東京(03)3261-4433  
 FAX 東京(03)3261-4441  
 発行者 日本山岳会会长 森 武昭  
 編集人 柏 澄子  
 Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp  
 印刷 株式会社 双陽社

● 東西南北以降の会員からの投稿が中心となるページについて、スペースの都合上、原稿をいただきながら先送りになつてあるものが多いため、そのため今月は4ページ増えました。12月に入つてから、強い寒波が日本列島に下りてきました。どうぞお気をつけて、良いお年をお迎えください。  
 (柏 澄子)

号に掲載しようというのは、毎年の習わしだる。これについて、晚餐会(および総会)記事執筆を長年にわたって担当してくださつて、高橋重之会報委員が、会終了後、余韻を味わう間もなく早速作業に入つてくださる。ほか、総務委員会や事務局の協力も得て、なんとか掲載に至る。いつもありがとうございます。